

地域材を地域で消費するシステムづくりのための調査				
[要約] 県下の4つの管内で、県産材の流通履歴を調査した。木材の輸送距離に関する指標としてウッドマイルズを利用した。その結果、県産材がどのように動き、どの程度の運搬距離を経ているかを数値で表すことができた。このことから、ウッドマイルズは県産材の流通履歴を評価する手法として利用できる可能性が考えられた。				
森林センター・普及指導担当		「実施期間」平成18年度		
[部会] 林産	[分野] 新たな研究分野	[予算区分] 国庫	[成果分類]	普及

[背景・ねらい]

本県では、琵琶湖森林づくり基本計画に基づき、「森林資源の循環利用の促進」に取り組んでいる。その中で県産材の利用拡大のための仕組みづくりや県産材の地産地消を進めている。しかしながら、県産材はその流通量だけでなく、流通形態の実態も解明されていない。これらの一端を解明し、地域材を地域で消費するシステムづくりに寄与する。

[成果の内容・特徴]

- (1) 搬出を伴った間伐材の流通履歴では、搬出された間伐材のほとんどは、直接最寄りの森林組合まで運ばれ、各管内でのウッドマイルズに極端な差はなかった。(表1)
- (2) 治山事業で使用された県産材型枠の流通履歴では、各管内ごとで比較すると平均ウッドマイルズは、湖北地域振興局管内が241kmと高く、甲賀県事務所管内で31kmと低かった。これは加工施設の位置による影響と考えられた。(図1)
- (3) 治山事業で使用された型枠以外の県産材木製品の流通履歴では、甲賀県事務所管内から高島県事務所管内の治山現場へ供給された木製品があり、そのウッドマイルズは、100kmを超えた。(表2)
- (4) 高島県事務所管内で支障木として伐採され、同じ管内の市場で販売された県産材の流通履歴では、多くが甲賀県事務所管内へ運ばれ、そのウッドマイルズは、90km近くになった。(表3)

以上のように、流通の一部ではあるが、県産材がどのような経路を辿り、どの程度の運搬距離を経ているかを把握することができた。

[成果の活用面・留意点]

ウッドマイルズによって、県産材がどの程度の運搬距離を経ているかを数値で表すことができた。県産材の普及を図る上で、他県産材との差別化は重要な要素である。さらには、同じ県産材の中でも流通の過程での運搬距離を数値化することによって、個々に差別化が可能となる。このことから、ウッドマイルズは、流通履歴を評価する手法として利用できる可能性が考えられた。また逆に、県産材の運搬距離を短くするためには、県産材の流通のあり方をどのようにしたらよいのかを、より具体的に考えることができると思われる。

表1 各管内における間伐材のウッドマイルズ

管内	No.	ウッドマイルズ(km)	地域別平均(km)
甲賀	1	15.4	
甲賀	2	6.9	
甲賀	3	5.2	
甲賀	4	3.8	
甲賀	5	12.6	
甲賀	6	16.7	
甲賀	7	16.1	
甲賀	8	8.7	
甲賀	9	7.6	
甲賀	10	8.5	
甲賀	11	7.4	
甲賀	12	5.3	
甲賀	13	6.4	
甲賀	14	13.1	
甲賀	15	6.5	
甲賀	16	7.6	9.2
湖北	1	9.0	9.0
大津	1	10.1	
大津	2	14.8	
大津	3	9.7	
大津	4	7.9	
大津	5	4.2	
大津	6	10.1	9.5
平均		9.3	

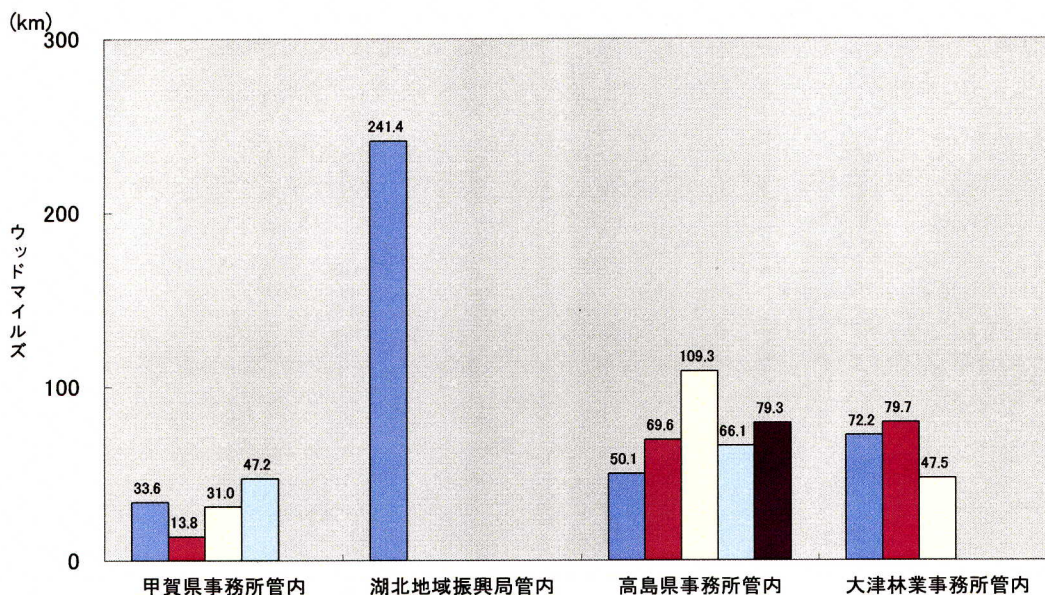


図1 各管内における県産材型枠のウッドマイルズの比較

表2 型枠以外の木製品の流通履歴

管内	No.	最終到着地	経由地2(加工地)	経由地1	産地(伐採地)	ウッドマイルズ(km)
湖北	1	伊香郡余呉町	米原市市場	—	米原市杉沢	46.8
高島	3	高島市朽木雲洞谷	甲賀市信楽町	—	甲賀市信楽町	106.0
高島	3	高島市朽木雲洞谷	甲賀市信楽町	—	甲賀市信楽町	107.2
高島	3	高島市朽木雲洞谷	甲賀市信楽町	甲賀市水口町	甲賀市甲賀町	132.2
高島	4	高島市朽木古屋	高島市安曇川町	—	高島市朽木麻生	66.1

表3 高島県事務所管内で伐採された支障木のウッドマイルズ

エリア	No.	最終到着地(買取先)	経由地1	産地(伐採地)	ウッドマイルズ(km)
高島	1	甲賀市信楽町	高島市朽木野尻	高島市朽木ほか	89.5
高島	2	甲賀市信楽町	高島市朽木野尻	高島市朽木ほか	89.0
高島	3	米原市市場	高島市朽木野尻	高島市朽木ほか	77.4